

あゆみ通信

VOL. 126
 あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会)
 会長 浪花 博
 広報 本持 喜康

第2組聞法会にご参集を!



5/13聞法会で(紹隆寺)

新緑の季節を過ぎて、もうすぐ梅雨に。春は短く、あっという間に夏の暑さが届く季節です。

2008年に発足した組推協「あゆみの会」も、もう10年。そろそろ、中学生を卒業するじきも近くなります。

お手次のお寺を、ご住職と協力して、多くのご門徒さんが集まる「聞法の道場」となるように願いを込めて、また自らを知るために、聞法を重ねてまいったと思います

しかし、年と共に体力が衰え、思うように体のゆうことが効かなくなります。若い時と違う。生き方があると教わりますが、頭では理解するのですが、時に辛いことと感じてしまいます。

そんな時に、同じ仲間と、お寺の垣根を越えて集まり、話し合い、一緒に聞法をする。難しい法話も、分からないながら聞くことで、楽しいことになりませんか。

一人でくよくよ悩んでいる

のではなく、仏法の教えに学ぶ機会を、少しでも意識して前に歩み出しませんか。お待ちしております。



第2組同朋大会8難波別院で

第2組聞法会

内容 お勤めと法話
 開始時間 午後2時
 参加費 500円
 どなたでもご参加できます。

- 6月15日(土)
 会場 行圓寺(西成区山王町)
 講師 藤園 恵先生
 (20組 願久寺)
- 7月3日(水)
 「共に学ぶ『正信偈』」
 会場 佛足寺(天王寺区北河堀町)
 講師 新田 修巳先生
 (4組 正業寺)
- 8月26日(月)
 会場 光照寺(天王寺区上汐)
 講師 高島 洸陽先生
 (5組 専光寺)
- 9月7日(土)
 「共に学ぶ『正信偈』」
 会場 唯専寺(浪速区敷津西)
 講師 新田 修巳先生
- 10月5日(土)
 会場 西教寺(阿倍野区阿倍野元町)
 講師 松井 聡先生
 (13組 心願寺)

6/26あゆみの会野外例会 大和大谷別院参拝と 今井町散策しませんか

聞法仲間の門徒会の皆さんにも参加を呼び掛けています。

日時 6月26日(水)
 参加ご希望の際は、浪花、吉田まで詳細をお尋ね下さい。



あゆみの会 野外例会
 真宗大谷派大和大谷別院参拝と
 重要伝統建築物群保存地区今井町歴史散歩
 日時 2019年6月26日(水)
 集合時間と場所 近鉄大谷線「上本町駅」(地上) 構内 5番線ホーム付近 午前9時40分
 行き先 ①大和橿原市今井町(重要伝統建築物群保存地区) ②真宗大谷派大和大谷別院(参詣)
 会費 1,000円
 ただし、交通費は自己負担(片道 1,260円) I C O K A P I T A P A をご利用ください
 参加申込み 同封の集書で(62円切手をよろしく)、6/15(土)までにお申込み下さい。当日のキャンセルは、ご容赦ください。

釈迦の説法は

釈迦は、覺りをブツダガヤで開いた後、座禅を1月された。覺りは言葉を超えているから、人間に説いても分からない。伝わっても、言葉で理解するから仏教で無くなる。人間に伝えても無理だと。ところが梵天が、説法を勧請します。それは、王舎城の悲劇の韋提希が、何でもわかんと思って生きてきた賢夫人に、言葉も間に合わないで苦しんでいる人たちが世界中に居る。言葉や理屈が間に合わない人に仏陀の説法が通じるかもと梵天が勧請して、仏陀は教えを説く人となります。(延塚知道「高僧和讃一」大阪教区准堂衆会) また、私たちが勉強するのは、「本物に遇った時に、すれ違わないように勉強する」とも。聞法第一に尽きるのでは。(本)

十方衆生というは、十方のよろずの衆生なり すなわちわれらなり 「尊号真像銘文」

第2組間法会報告



2019年5月13日(月) 午後2時から、天王寺区の紹隆寺(喜左上恵子住職)を会場に、今年度第1回目の第2組間法会「共に学ぶ『正信偈』」が開催され、組内の住職・寺族と門徒・推進員など、30名が参加した。講師は第4組正業寺住職の新田修巳先生で、今回は「本師曇鸞梁天子 常向鸞処菩薩礼 三蔵流支授浄教 梵焼仙経帰楽邦」を学びました。仏法を広めるためと言って権力(政治)を利用してはならないとの宗祖のお手紙を紹介されたり、また、宗祖は「十方衆生、みな我らなり」と言う御心であった。いのちの平等を共に生きあう世界を浄土と話されました。

(レポート・写真 細川克彦)

如是我聞

佛足寺 細川 克彦



先生は、初めに「正信偈」の「本師曇鸞梁天子 常向鸞処菩薩礼」について、仏者で

ある曇鸞大師を、武帝(中国前漢時代の第7代皇帝)は菩薩として礼拝されたと、宗祖親鸞聖人は謳っておられることはどうことだろうか。宗教と政治は対等であってどちらもお互いを支配してはならない。宗祖は承元の法難にあわれたこと。また「出家の人の法は、国王に向かいて礼拝せず」(真宗聖典387頁)また門徒へのお手紙に権力者に頼って仏法を広めようとしてはならないと言われて



寺島 実郎氏

寺島実郎氏(1947生れ。多摩大学学長・評論家)は、「親鸞聖人はそれまでの国家護持を祈る役目をしていた仏教のパラダイム(思考の枠組み)を民衆の絶対平等主義に大きく転換させた凄い人」(「同朋」2018年12月号、東本願寺発行)と話しておられる。

また、2002年の本山での「戦没者追



大江健三郎氏

弔法会」の講師として招かれた作家の大江健三郎氏は親鸞聖人の、上記の「尊号真像銘文」の言葉に共感。それは宗派、性別、敵味方を問わない、生きとし生けるものすべてをわれらと実感された宗祖に共鳴されたのであり、寺島氏はいのちの原点に帰って、いのちの重さは同じだと話された。そこから宗祖は、仏教は政治



に支配されてはならない。そのことは御同朋、御同行と言う言葉に象徴されていると。

休憩後、続く「三蔵流支授浄教 梵焼仙経帰楽邦」について、箕輪秀邦先生(浄土真宗僧侶、哲学者)が、俳優緒方拳氏の書物から、氏が晩年癌になり、悩みを抱えて中国を旅行された時、あるお寺の門前の言葉「今日感会 今日臨終」(今日はあなたに会えて良かった。でももう会えないかもしれない)に遇って、いのちの事実に向き合った時、感動されたことを紹介されている。無限のいのちの事実を目覚めてみると、現象としての死は肉体のいのちの解散であるが、しかし無量寿のいのちはやがて無限のいのちの世界として広がっていく。そういう道理を曇鸞大師はしっかりと身に仏法を通して受け止めた時に、いさぎよく仙経を焼き捨てられたのであると話された。

(細川氏のお力添えで、紙面の編集ができたことに感謝する＝事務局)

